

今日のトピック

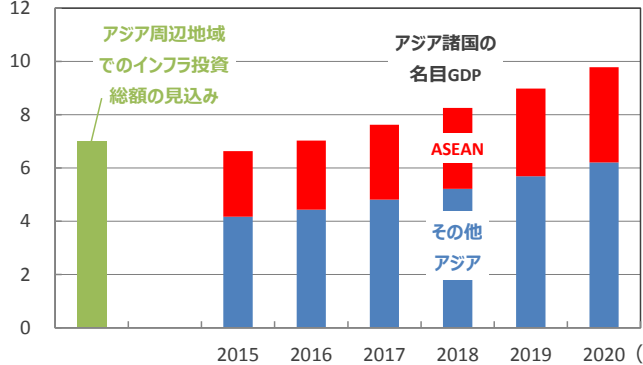
アジア諸国のインフラ投資が本格化

ポイント1 「一帯一路」で成長加速

膨大なインフラ投資が動きつつある

- 中国は、来年からの5カ年計画で新シルクロード「一帯一路」戦略を強化する方針です。海陸2つのルートで欧州に通じる物流網を構築する投資は、総額6兆米ドル（約740兆円）にもものぼるとされます。ASEAN（東南アジア諸国連合）でのインフラ投資などを合わせると、総額は足元のアジア諸国（グラフの注参照）の名目GDPを上回るほどです。
- 中国は、豊富な資金力を背景に周辺国とのインフラ整備での協力関係を深めることにより、アジア諸国の成長への貢献も期待されます。こうした大きなうねりの中で金融支援の要となるのが「AIIB（アジアインフラ投資銀行）」です。

(兆米ドル) アジアの名目GDPとインフラ投資総額の見込み



(注) インフラ投資総額の見込みは、各種報道による一帯一路関連投資総額の見込みとADBによる年間投資必要額の10年分を参考に計算。名目GDPはIMFの予想。アジア諸国はAIIB出資21カ国（中国、パキスタンを除く）。
(出所) IMF、ADB、各種報道などにより三井住友アセットマネジメント作成

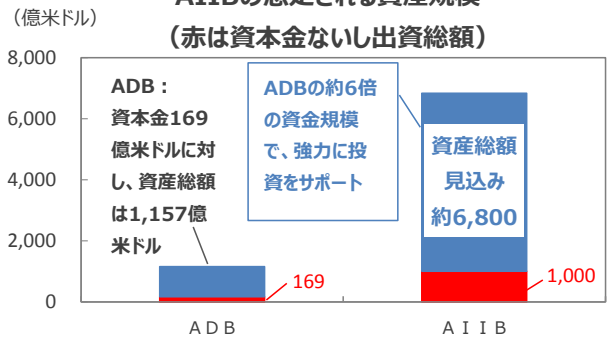
ポイント2 ASEANもインフラ投資拡大

ADBの資金に加え、AIIBにも期待

- アジア開発銀行（ADB）の試算では、ASEAN地域で必要とされるインフラ投資は、年間1,000億米ドル（約12兆円）とされ、現行の投資はその半分にも満たないとされます。ADB傘下の「ASEANインフラ基金（AIF）」に加え、加盟国が出資するAIIBも通じ、インフラ投資が促進される見込みです。

AIIBの想定される資産規模

(赤は資本金ないし出資総額)



(注) ADBのデータは2014年。AIIBの資産規模はADBの資本・資産比率と同等と仮定し、将来的な資産規模として試算。
(出所) ADBのデータなどを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 AIIB、ADB、日本の援助などさまざまな資金がアジアの成長を後押し

- アジア諸国には人口の若い国が多く、インフラ整備が進むと、消費拡大に伴う貿易の活発化も見込まれ、中国がこの地域へアプローチを強める背景となっています。「AIIB」のサポートでインフラ整備が進むことにより、アジア地域の成長の加速が期待されます。
- 安倍首相は今年7月、メコン地域（タイ、ベトナム、カンボジア、ミャンマー、ラオス）の成長実現に向け、今後3年で7,500億円の支援（ODA）を行う方針を明らかにしました。アジア地域の成長は、さまざまな資金が後押しし、促進されるものと考えられます。

ここもチェック! 2015年11月27日 「AIIB」でアジア新興国の成長が拡大（アジア）
2015年11月11日 最近の指標から見る中国経済（2015年11月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。